

木工体験による木材利用PR

1 はじめに

10月15日（日）、北上市憩いの森で「秋の緑化まつり」が開催され、春に引続き花巻農林振興センターも主要行事になっている木工体験で参加しました。主催は岩手県緑化推進委員会北上支部と北上市森林組合ですが、農林振興センターの参加もすっかり定着しました。

憩いの森では年4回イベントを開催していますが、春秋は「緑化まつり」と併催なので大人の参加が多く木工にも嗜好を凝らすことが求められています。

2 体験内容

春の木工は「マガジンラック、プランターカバー」の作製で、3枚の板からパーツを切り出し釘打ちして仕上げる作業でした。ノコギリ作業の後に釘打ちがあり、大人でも結構手強い作業で1時間以上掛る人もいました。

そこで今回は、その時の声を考慮してリクエストの多い巣箱、子供向けの本棚を木工メニューに加え、更に全ての部材をキット化してノコギリ作業を無くし、釘打ちだけにしました。



釘打作業だけなのでゆとりの作業風景

3 作業風景

10時の開会と同時に参加希望者がドッと訪れ、ラック、巣箱、本棚と思いの木工にチャレンジされました。ノコギリ作業が無くなったことにより大人の男性は少々手持ち無沙汰のようでしたが女性や子供達は十分満足されたようで、ほとんどの方が30分程度で仕上げ、自分の作品に満足して帰っていかれました。何人かに感想を伺ったところノコギリ作業の省略に不満を言う人は無く、「釘打ちだけでも大変！」とのことでした。

春の木工では鋸引き釘打ち、曲がった釘の釘抜などに悪戦苦闘する人が多数いましたが、今回は「楽しかった」と言ってお帰りになる方が多かったとの印象でした。

4 普及の視点

これまでは木工体験と林業の繋がりを難しく考え過ぎたように思います。鋸や金槌が日常生活から疎遠になった今日、来場者が木に触れて「楽しかった」と感じていただけるのなら、それで十分に木材利用をPRが出来たのではないかと認識した一日になりました。



友達同士や親子での楽しい作業風景